

# いこいの村

題字 栗の木寮

エビセスヌウ

2014年(平成26年)8月20日発行

第387号

発行責任者

いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畠町久瀬谷2番地

TEL(0773)46-0101

FAX(0773)46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

## たからの里のパン 販売に体験に大忙し！！



平成23年度より始まった「たからの里」。石窯とまきでパンを焼いて販売しています。予約にてランチやパン・ピザづくり体験も受けています。当初は通所する仲間(利用者は2名でしたが、現在は5名まで増えました。納品先、販売先も増えています。

今年3月より綾部市高津町

にあります「さくらホーム」様、4月より「舞鶴市役所」

様で定期移動販売開始。そして今年6月よりグンゼスクエア内に新たにオープンした

「あやべ特産館」様に納品開

始。販売先の増加と共に売り上げも少しずつではあります

が増えています。それに伴い、仲間の給料も、当初は1ヶ月

1万円前後でしたが、現在では3万円を超えてます。

しかし、まだまだ仲間の満足できる金額、業務内容には至っておりません。今後、さらなる売上増、業務内容の充実、給料アップが大きな課題です。

# 地域の方々と共に ~ボランティアの皆さんのお借りして~



舞楽「蘭陵王」



管弦…樂器のみの演劇

## 雅樂ボランティア

7月16日の午後、京都市にある市比賣神社の『にわひめ雅楽会』のメンバーの皆さんが梅の木寮で、演奏と舞を披露して下さいました。メンバーの中には、いいの村で仕事をしている職員もおり、今回のボランティアのおひかけにもなりました。

「こんな良いもんをこんな近くでなかなか見られへんで」と喜んでいました。利用者からは、「ええ音色やね。ええもんを見せてもらひた」「衣装や楽器がきれいで感動した」などの感想があり、厳かで心落ち着くひと時を過ごすことができました。

写真奥で雅楽の紹介をする  
いこいの村の職員

## 雅樂とは、平安時代から続く日本の伝統音楽で打楽器、弦楽器、管楽器の3種類がそろった世界で一番古い管弦楽(フルオーケストラ)と言われています。

伝統衣装を身にまといた皆さん、会場に入り音楽が始まると一瞬にして会場の空気が変わるのが分かりました。

「ラウターンスの」披露や「クラシックの歌唱で楽しげひと時を過ごした他、大正琴の演奏に合わせて懐メロを歌つたり、

## 大正琴ボランティア

話題を交えて歌いました。ボランティアの方の中には、地元出身で利用者と同級生だった方がおられ、話が弾む一幕もありました。

利用者とのお話しや洗い物などのお手伝い、趣味と一緒に楽しんでいたたく方、お気軽にしていじつの村めぐり連絡いたしました。

こんな良いもんをこんな近くで  
なかなか見られへんで

ティサービス係

(いこいの村・梅の木寮  
金子 泰治)琴の音色に合わせ  
手話歌を披露している様子

勝山 貴生(主)

## 聴(じ)えの豆知識

### はじめに

私は難聴で、耳かけ式の補聴器を使っていますが、病院などで名前や番号を呼ばれても聞き分けが困難です。

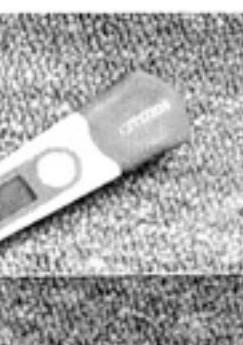
10数年前、「風邪を患つて病院に行った時、しんどい体調で自分が呼ばれる順番はまだかまだかと待ったあげく呼ばれても聞こえず」、順番が後回しにされた苦い経験が幾度あります。

それ故に、大病院を敬遠し小さな医院を選んだり、お客様の少ない郵便局や銀行を求めて行つてこたものでした。

### 振動呼び出し機器



振動呼び出し器



振動体温計 検測するとブルブルとふるえて知らせてくれます

とかく、聴覚障害者向けに、「振動呼び出し機器」を設置してくれる病院はまだ少ないです。さいわい綾部市では、

綾部市立病院があり、受付で呼び出し機器が借りられます。

健康管理に便利な体温計

多くの人が利用する大食堂など、公共施設に普及していることが願いです。

### 健康管理に便利な体温計

京都市内の食堂など、飲食メニューを注文後、「番号を放送で呼ばれる」といふと利用を躊躇します。やむを得ない時は、カウンターのそばで待機し続けるしかありません。

現在は、製造元のシチズンから「検温後」、振動で知らせられる体温計が発売されています。薬局から3千円程度で、取り寄せられます。聴こえない方や難聴者の健康管理にお役立てください。

### 振動体温計

しかし、最近はありがたい機器が登場したので、よく利用する病院にお願いして、受付に設置して頂きました。

しかし、その機器は3万円超と高価で補助制度がない



いこいの村  
総務部  
部長 岩本 幸子

7月21日付朝日新聞に、「岡山県倉敷市で行方不明になつた小学生女児が、容疑者が監禁されていた。容疑者が捜査線上に浮上したきっかけは、不審者を警戒する地域の「田」であった」と報じられていました。もし、このようない事件が地元上林地域で起つたら、同様に早期解決できただろうと思ひながら、この記事を読みました。

前日の7月20日には、「第19回上林川まつり」が開催されました。当日は956人の来場者があり、多くの人々の笑顔があふれぬまつりとなりました。

その後の岡山県の事件。口上林の地域力を実感した翌日だからこそ、大勢のお客さんでよかつたなあ」多くの方々とこの思いを共有させていただいた太切り競争に、地元の20代の人達が参加して、まつりを盛り立ててくれました。来年はいよいよ20回。次世代を担う人たちを巻き込みながら、このまつりが長く続いて行けばよいなあと思います。

「暑かったなあ。準備と片付けたいへんやつたなあ」「けど、大勢のお客さんでよかつたなあ」多くの方々とこの思いを共有させていただいた災訓練が実施されます。「防犯の田」は、すなわち「防災の田」にもなります。災害時に地域とどう連携すべきか。「いこいの村」も情報伝達訓練等地域との連携訓練を、計画させていただきます。

「いこいの村」も毎年実行委員として、地域の皆様と一緒に準備や当日の運営を担当せていたらしく、草刈りや設営作業等、地域の皆様の機動力と団結力にはいつも圧倒されます。船着場の設

常は「Jの人」が得意等、お互いの人となりがわかるからこそできる作業だと感心する場面がたくさんあります。

今年は、ステージ発表や丸太切り競争に、地元の20代の人達が参加して、まつりを盛り立ててくれました。来年はいよいよ20回。次世代を担う人たちを巻き込みながら、このまつりが長く続いて行けばよいなあと思います。

